

木森の会ニュース

会 員 だ よ り

*卒業して一年

2006年度卒業 青山尚史

地域科学部を平成18年3月25日に卒業し、ようやく一年経過しましたが、今現在私は国立大学法人岐阜大学の事務職員として働いています。

卒業して四ヶ月間は就職浪人をしていましたが、平成18年8月1日付けで岐阜大学に採用され、今にいたります。

現在の配属先は工学部学務係です。仕事としては主に、学生が質問に来たときの窓口対応、先生方とのやりとり、学籍・学生数に関する調査・報告などを担当しています。

働き始めてまだ半年ほどですが、印象に残っていることとしては、入試関係の仕事が挙げられます。1月はセンター試験会場準備、願書受付を行い、2月は入学試験、3月は合格発表など、自分が受験生の時に経験したことを思い出しながら、受験者を受け入れる立場として仕事をする中で、なかなか貴重な経験ができたと思います。

今現在は工学部に所属しているので、工学部生と直に対する機会が多く、地域科学部生との質・雰囲気、学部によってかなり様子が変わるのだなということを感じています。学生時代には一部の先生としか関わりがありませんでしたが、真剣に学生のことを考えてくれる先生方とのやりとりには感激を覚えます。また、岐阜大学を学生からの立場、一職員としての立場と、自分なりに視点を違えて見ることに面白みを感じています。

地域科学部が創立されてから10周年ということですが、これからの益々の発展を祈っています。自分が地域科学部で学んだ中で一番大きいのは、社会のあらゆる事象を様々な視点から、大きく捉えるという視点を養えたことです。仕事をする上でも客観的な立場にたち、視点を換えることは、自分の視野を広げることができていると感じています。これから地域科学部に入学・卒業する学生にも、地域で学んだことを活かしてがんばってほしいと思います。

*東京から岐阜に赴任して

岐阜大学地域科学部 准教授 伊原亮司

私は、岐阜と同じ東海地方の静岡で生まれ育ち、学生時代、サラリーマン時代、院生時代を東京で過ごしました。そして、3年前、本学部に赴任してきました。正直に申し上げれば、ここに来る前は、岐阜という土地にまったく疎く、初めて岐阜大学を訪れた際、名古屋から岐阜まで電車で20分しかかからないことに驚きを感じたほどでした。

しかし、今年で岐阜生活も4年目に入り、岐阜の地にも、岐大の教員生活にも慣れてきました。東京での生活は、刺激に富むものの、情報過多で気が休まりません。また、院生時代は、博士論文の作成に向けて、ヒリヒリとした環境で研究に没頭してきました。現在は、岐阜の豊かな自然に囲まれ、地域科学部ののんびりとした雰囲気の中で癒されています。

本学部は、様々な分野の先生がいっぱいいるため、自分の分野の「常識」が通じない大変さがあります。しかし、それはそれで「新しい見方」を促す刺激になっています。また、本学部の学生は、しばしばおとなしいと言われますが、じっくりと話をすると、彼(女)らなりの個性があり、個人的にも社会学者としても、教えられることが多い毎日です。

これまでのところ、充実した岐阜生活を送っています。ただ、難点がないわけではありません。それは酷暑と雪です。夏は海風が涼しく、冬は雪が降らない静岡の出身者としては、それだけは辛抱ですが、それ以外は満足の岐阜生活です。-

*地域科学部を卒業して思うこと

2008年度卒業 安藤あゆみ

私は、地域科学部では山崎セミナーに所属し、地域コミュニティに関する研究をしていました。そういったことに関心を持って岐阜で活動するNPO法人の活動に関わり、実社会の中でのさまざまな体験や、たくさんの人々との出会いから多くのことを学びました。興味があるから学び、学ぶことで知識が深まるのでさらに興味が湧いてくる。私の大学生活は、学んで行動していく中で、新たな自分を開拓していく日々だったと思います。

大学を卒業し、社会人として働くこれからは、4年間学んだ多くことを実践していく場だと思っています。私は今、流通業のパローに就職しこの仕事を通して地域社会を豊かにしていきたいという思いで働いています。まだ新入社員として研修を重ねる毎日ですが、大学生活で学んだことが糧となって、働く原動力にもなっています。

地域科学部に入学した当時、周りの人に「地域科学部って何をするとところなのか」とよく聞かれ、返答に困っていました。現在も職場で、大学の話になると、同じことを聞かれます。でも、4年前とは違い、今は地域科学部では何ができ、自分は何をしてきたのかを言うことができます。そして、その大学生活が今の私の考えや生き方を方向付けていったのだと改めて感じています。

*後悔しない自分であるために

2002年度卒業 川嶋元裕

大学を卒業して、はや4年。長くもあり、短くもありました。私は大学を卒業してからの4年で2度の転職し、現在に至っています。

卒業後に就職したのは、在学時代からアルバイトをしていたラジオ番組・ラジオCMの制作会社でした。昔から目指していた業界での仕事。サークルの先輩も会社で活躍していたこともあり、色々な方に助けてもらえました。そういう点で、私は恵まれていました。ただ、こうした恵まれた環境で働くにつれ、自分のことを知らない人の中、業界で身をおいてみたい、他の世界も見たいという気持ちが芽生えたのも事実です。

その会社では3年程働き、その後は短期留学をし、帰国後就職しました。前職では体を壊して退職し、現在は登記事務所にて修行中です。

思い返せば、この4年は失敗や反省の連続。ただ、後悔はありません。自分自身で決めた道を進んでいるので、多分、これからも色々な面で選択を迫られるかと思いますが、後悔のないように進んで“生きたい”と思います。

設立10周年を迎えて

岐阜大学地域科学部長 高橋 弦

国境の障壁が容易に乗り越えたい絶対的なものから相対的なものへ変わりつつあります。EUの現実をみればヒト、カネ、モノの移動に国境はありませんし、イスラム圏をみると国単位で何かを考えてもさして役に立ちそうにありません。国境の外も内も「地域」です。地域のもつ重みが21世紀社会では格段に増すことになるでしょう。

そこでよくいわれるのが好むと好まざるに関わらず、経済的にはグローバル化が進行する一方で、人々の生活保障のセーフティネットをはる役目はより多く自治体にシフトしてくる、という予見です。これを軸に地方分権の政策指向も意味をもってきます。

私たちは地域科学部の設立10周年を迎え、

上記のテーゼを岐阜の現実に即してあらためて考えてみようと思います。6月8日(金)の岐阜シンポは勤務の都合で来場されるのが難しいかもしれませんが、9日(土)のフォーラムには是非OG・OBの方に大勢きて頂きたいと願っています。みなさんが「審判」された地域学実習の進め方、方向性といったテーマについて、岐大とおなじく地域系の学部を持ついくつかの大学と、それぞれの経験をもちよりながら、論じ合ってみる予定です。

その後、昼食をともにしつつ、卒業生の方々による地域科学部へのご意見・ご批判等をお聞かせ願えたら、と考えています。楽しみに待っています。

2007年度森の会役員が決定

会 長／浅井 彰子①

幹 事／牛田 陽子①、伊藤 雅浩①、田中 幸恵②

副会長／浅野 善信①、石黒 好美①、永田 尚子①

会 計／荒瀬 修三②、大竹 裕美②

幹事長／加地 和歌子①

監 査／中嶋 英理①、鬼頭 利佳①

①:2000年度卒業 ②:2002年度卒業

会

計

報

告

2005年度会計報告

収入の部

前年度からの繰越	7,801,281
会費(10000円×104人)	1,040,000
利子	175
合計	8,841,456

支出の部

事業費(forest印刷費、岐阜大学フェア協賛金、森の会ニュース発行諸費用等)	319,493
通信費(住所調査葉書受取人払い送料)	9,660
事務費	16,158
会議費	4,730
会費返還(二重払い分10000円×1人)	10,000
次年度へ繰越	8,481,415
合計	8,841,456

会計書類等を監査したところ、適正に執行されていることを認めましたので、報告します。

中嶋 英理(印) 鬼頭 利佳(印) 2006年 4月1日

2006年度会計報告

収入の部

前年度からの繰越	8,481,415
会費(10,000円×89人)	890,000
利子	180
合計	9,371,595

支出の部

事業費(forest印刷費)	67,200
事務費	1,258
会議費	500
次年度へ繰越	9,302,637
合計	9,371,595

会計書類等を監査したところ、適正に執行されていることを認めましたので、報告します。

中嶋 英理(印) 鬼頭 利佳(印) 2007年 4月1日

第12回岐阜シンポジウム開催

来る平成19年6月8日(金)・9日(土)に、地域科学部創立10周年記念の企画のひとつとして、岐阜大学にて第12回岐阜シンポジウム「岐阜学を求めてpart II」が開催されます。

地域科学部の教員・学生・教員・卒業生はもちろん、他大学からのゲストや前多治見市長もお招きして盛大に開催されます。「地方の時代」が叫ばれる一方で、グローバリゼーションの嵐もまたその激しさを増しています。地域に根ざしつつ、より普遍的な形で問題を突き詰めて、お互いに意見を交し合うことで、学部と地域とのより緊密な連携を深める機会となることを、同窓会としても願っております。

6月8日(金)の18時から、岐阜大学第2食堂にて懇親会「記念の集い」も開催されます。同窓会員の皆様も、お気軽に参加されてはいかがでしょうか。

第12回岐阜シンポジウム 岐阜学を求めてpart II —地域(現場)から、地域の生活と地域づくりを考える—

主 催:国立大学法人岐阜大学(後援:岐阜県、(財)岐阜観光コンベンション協会)

場 所:国立大学法人岐阜大学

■6月8日(金) 岐阜大学講堂

○10:30~12:30 シンポジウムⅠ 「地域から地域づくりを考える」

講演:竹内 信史(岐阜大学地域科学部教授)

パネル討論(コーディネーター:竹内信史)

竹内信史

奥野信宏(中京大学総合政策学部学部長)

西寺雅也(前多治見市長)

林 正子(岐阜大学地域科学部教授)

○14:00~16:30 シンポジウムⅡ 「福祉の現場から、地域の生活を考える」

講演:佐賀一暎(金沢大学経済学部教授)

報告:高木和美(岐阜大学地域科学部准教授)

長尾拓裕(岐阜大学大学院地域科学研究科院生・介護支援専門員)

パネル討論(コーディネーター:高木和美)

佐賀一暎・高木和美・長尾拓裕

○16:30~16:50 懇話講演 高橋 敏(岐阜大学地域科学部学部長)

○18:00~20:00 地域科学部創立10周年「記念の集い」(岐阜大学生協第2食堂にて)

■6月9日(土) 岐阜大学地域科学部101講義室

○ 9:30~12:30 フォーラム

「地域学のあり方を考える—持続可能な地域連携と教育プログラマー—」

コーディネーター:富樫幸一(岐阜大学地域科学部准教授)

山崎仁郎(岐阜大学地域科学部准教授)

討論者:富樫幸一、山崎仁郎、地域学系大学・学部等連携協議会(北海道教育大学教育学部副校長、山形大学地域教育文化学部、宇都宮大学国際学部、鳥取大学地域学部)、地域科学部卒業生、本学部教育職員、大学院生、学部学生他



地域科学部の創立10周年、まことにおめでとございます。心からお祝い申し上げます。そして、1期生の卒業と同時に発足した森の会は満6歳となり、7年目の歩みを始めました。

6月8、9日の記念行事では森の会もお手伝いいたします。会員の皆さま、卒業生として地域科学部の発展を喜び合い、また、これからの考えるために、ぜひ足をお運びください。なつかしいお顔に出会えることを楽しみにしております。
(森の会 会長 浅井影子)

※森の会ニュースではみなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。メールまたは郵送にて下記宛先までお送りください。来年の地域科学部創立10周年記念行事についてもご意見、アイデアなどありましたらぜひお聞かせください。

連絡先

岐阜大学地域科学部同窓会 森の会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内

mmori2001@gumail.co.gifu-u.ac.jp